

地域連携推進室主催事業	8
東日本大震災関係特集	12
徳島大学パイロット事業支援プログラム (社会貢献)採択事業	20
厚生労働省 緊急雇用創出事業 (重点分野雇用創出事業)	30
徳島大学地域連携公開事業 (事業の概要と成果報告)	31
徳島大学地域創生センター活動報告	35
地域交流の拠点「ガレリア新蔵」	36
「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」事業	37
徳島大学における地域連携事業一覧	38
報道記事に見る徳島大学の地域貢献事業	41



“その時どうするか!” 安心できるまちづくりへ 急病、緊急・災害から命とくらしを守る

開催主旨 人口減少、高齢化が進む県南地域の安心できる街づくりには、医療、災害などに対応できる地域のしくみ、備えが必要です。徳島大学では、2010年より海部病院との協力を進め、2011年11月に脳疾患のための地域脳神経診療部を開設するなど、地域医療のしくみづくりに協力してきました。タウンミーティングでは、地域医療の視点から、急病、緊急時、災害時への対応を含めて、海部地域での安心できるくらしのためにできることを議論しました。

日時: 平成24年3月4日(日) 14時～17時

場所: 牟岐町 海の総合文化センター ホール

主催: 国立大学法人徳島大学、徳島地域連携協議会

共催: 徳島県、海部病院、牟岐町、
美波町、海陽町

後援: 徳島県市長会、徳島県町村会、徳島県医師会、
徳島市医師会、徳島新聞社、四国放送(株)、
NHK徳島放送局

開会挨拶: 香川 征(徳島大学長)
飯泉 嘉門(徳島県知事)
福井 雅彦(牟岐町長)

基調講演: 他県に学び、できることは?
■ 鹿兒島県の地域医療の現状と課題
鹿兒島大学大学院離島へき地医療人育成センター特任教授
大脇 哲洋

■ 地域医療を守るために住民としてできること
地域医療を守る会副会長 石本 知恵子

パネルディスカッション: 安心できるまちづくりへ
話題提供:
① 脳卒中に対する海部病院と徳島大学の取り組みから
徳島大学病院 地域脳神経外科診療部 特任教授
影治 照喜

② 災害にどう立ちむかうか?
徳島県南部総合県民局 企画振興部(美波) 副部長
原田 吉則

③ 地域での医療の魅力
徳島大学医学部医学科学生 中西 嘉憲

④ 安全で安心なくらしのための道路の役割
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所長
小林 稔

⑤ 健康医療福祉のまちづくりへ
徳島大学地域連携推進室長 山中 英生

座談会:
進行 谷 憲治(徳島大学大学院総合診療医学分野特任教授)
パネリスト 大脇 哲洋、石本 知恵子、原田 吉則、
小林 稔、影治 照喜、山中 英生、中西 嘉憲

開会挨拶 坂東 弘康(徳島県立海部病院長)

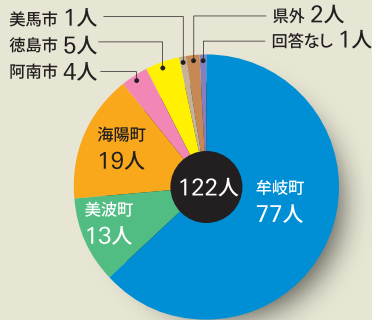
第8回タウンミーティングは、牟岐町で開催されました。基調講演では、大脇氏による「鹿兒島県の地域医療の現状と課題」と石本氏の「地域医療を守るために住民としてできること」と題して講演いただきました。つづいて、①影治氏から「脳卒中に対する海部病院と徳島大学の取り組みから」、②原田氏から「災害にどう立ちむかうか?」③中西氏から「地域での医療の魅力」④小林氏から「安全で安心なくらしのための道路の役割」⑤山中氏から「健康医療福祉のまちづくり」についての話題提供があり、それらを題材に発表者及び参加者で「安心できるまちづくりへ」をテーマに、意見交換を行いました。医師確保については、「医師が働きやすい環境を住民がつくっていくことが大切で、自らの安心安全を保つことになる」などの意見が出され、参加者からも活発な意見が述べられました。



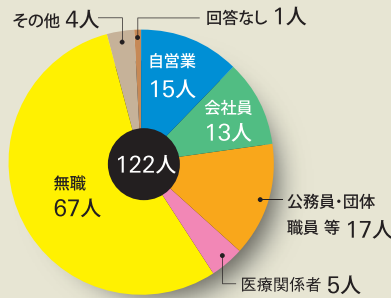
平成23年度 徳島大学・徳島地域連携協議会主催 海部タウンミーティング アンケート集計結果

【アンケート実施日・場所】平成24年3月4日 牟岐町海の総合文化センター 【回答者数】122名（参加者約300名 回収率40.6%）

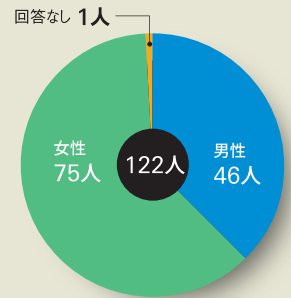
貴方の住所をお答え下さい。



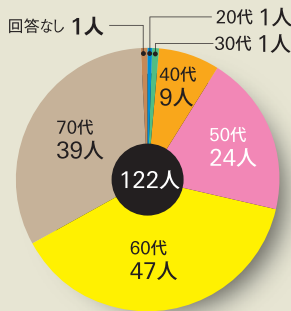
貴方の職業をお答え下さい。



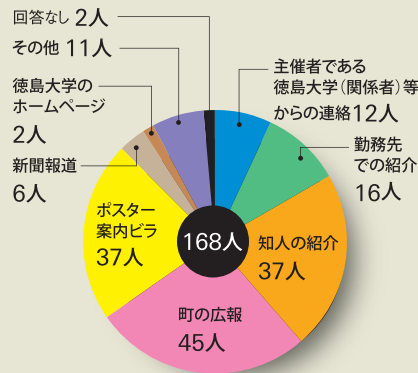
性別をお答え下さい。



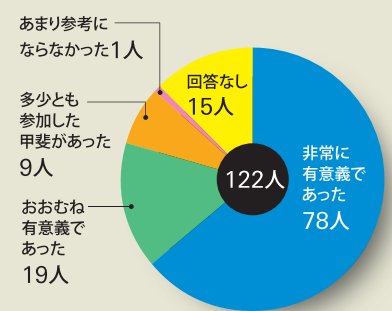
貴方の年齢をお答え下さい。



このタウンミーティングの開催をどのようにお知りになりましたか（複数回答可）



タウンミーティングの内容は有意義なものでしたか



タウンミーティングの内容で関心を持たれた点をお書き下さい。

- 地域医療と道路、医師の確保など、守る会で先生を大切にす地域住民の力がすごいと思う。なかなかできない一。頭が下がります。
- 河川国道事務所長さんのお話し。やっと高速道路が出来のかもしれないと思える話を聞いて早くお願いいたします。よろしく思いました。医療も人口減少も道がないと解決できないと思います。
- 医師数と寿命の関係、救急受け入れの再開によりひと安心となったが、今後の持続が課題と思います。医療の地域格差が寿命に関係することを改めて考える機会となりました。
- 脳卒中が非常に多いことに驚きました。山間辺地でも平等な治療が受けられることが少しわかりました。災害について聞く度にだんだん自分の中で具体化していくように思いました。
- 病院問題も災害問題も地域住民とのより密接な関係が大切と思いました。地域住民の高い関心がキーポイントとったりもしました。
- 安心できる町づくりとは。医療にたずさわる人はどうするのか、行政は何をどうするのか、さらに住民は何を考えたらいのか等の提言や発表があり大変よくわかりました。
- 高速道路は、経済面だけでなく、防災、避難復旧のためにも早期着工、ネットワークを完成させて欲しい。
- i-stroke(スマートホン)の県をあげての推進

タウンミーティングあるいは徳島大学に対して、要望やご意見があればお書き下さい。

- 徳島大学が医師派遣の機関として責任を持ち派遣して頂かないと僻地の病院は成り立たない。安定した救急医療をお願いします。
- 予防・治療・住民への啓発も含めてリードしてほしいと思っています。
- 若いこれからの医師に地域医療の大切さを教えてほしい。
- 学生アンケートの発表があったが生の学生の声を届けてほしい。
- 今の取り組みを継続して欲しい。
- 長期の医師確保をお願いしたい。(脳外科、産婦人科、小児科)
- 大学(医学部)に限らず、他部であっても地域との交流会を増やして行く事で医療はもちろん産業方面に於いてPRをし、医療面、産業面、交通面をより良く進めて欲しい。

関心を持たれているテーマ・地域課題があれば、お書き下さい。

- 医療(災害等)その他地域の活性化について
- 安心して人生を全うできる地域づくり
- 南部災害に備えた道路の早期建設について
- 命と道の大切さ
- 市民をささえる町づくり
- 災害医療、医療救護所
- 少子高齢化に対する取り組み、具体的実践例等。

※アンケート回答者の文言をそのまま記載

健康・医療・福祉のまちづくりを考える

開催主旨 「寝たきりをつくらない都市」健康医療福祉都市は、人間性を回復させる「まち」の空間とコミュニティづくりを目指すものです。脳卒中からの人間回復を実現する「闘りハビリテーション」は実践の中から構想されました。シンポジウムでは、構想の発案者である医師からのメッセージと、構想の具体化を進めている国の取組みを紹介し、健康づくりを大きな柱として進めている徳島県での取組みや、徳島大学からの提案を話題に徳島での健康・医療・福祉が連携したまちづくりの方向を議論しました。

日時: 平成23年10月16日 (日) 13:30 ~ 16:30

場所: とくぎんトモニプラザ

主催: 国立大学法人徳島大学

共催: 徳島地域連協議会

後援: 徳島県、徳島県市長会、徳島県町村会、
徳島県医師会、徳島市医師会、(社)徳島新聞社、
四国放送(株)、NHK徳島放送局

開会挨拶: 徳島大学長 香川 征

基調講演:

①「世界をリードする超高齢化社会の
健康医療福祉都市構想」

初台リハビリテーション病院脳卒中診療科長 酒向 正春

②「健康・医療・福祉と連携する都市政策に向けて」

富山市副市長、前国土交通省都市・

地域整備局 まちづくり推進課都市総合事業推進室室長

神田 昌幸

パネルディスカッション—とくしま・健やか・まちづくり—

話題提供:

「とくしま歩きたくなるまちのイメージ・プレゼンテーション、佐那河内のジョガー・ウォーカープロジェクト、万代埠頭地区の健康づくり村構想」

真田 純子

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助教)

「徳島県における多彩な健康づくりの取り組み」

飯泉 嘉門 (徳島県知事)

座談会:

進行 山中 英生 (徳島大学地域連携推進室長)

パネリスト

飯泉 嘉門 (徳島県知事)

神田 昌幸 (富山市副市長)

酒向 正春 (初台リハビリテーション病院脳卒中診療科長)

神田 真奈美 (鳴門市総合型地域スポーツクラブ)

内藤 佐和子 (徳島活性化委員会代表)

永廣 信治 (徳島大学病院脳卒中センター長)

梶 龍兒 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授)

藤澤正一郎 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授)

閉会挨拶 和田 眞 (徳島大学副学長)

本シンポジウムは、本学が地域社会の課題を取り上げて実施しているもので、今年度は第9回目となり、約130人の参加者がありました。

基調講演においては、酒向氏と神田氏から、健康・医療・福祉と連携する都市政策について「寝たきりをつくらない都市」として、人間性を回復させる「まち」の空間とコミュニティづくりを目指す健康医療福祉都市構想について基調講演がありました。

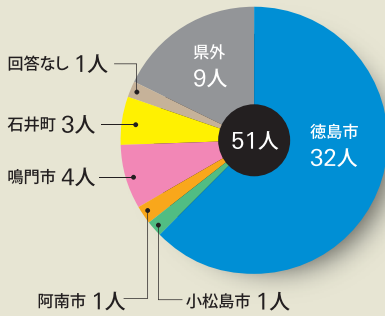
また、真田氏と飯泉県知事から徳島県における健康づくりの取組みについて話題提供があり、「とくしま・健やか・まちづくり」をテーマにしたパネルディスカッションでは、健康運動の普及に必要なことや若者の力を高齢化社会でどう活かすかなどについて活発な意見交換が行われました。



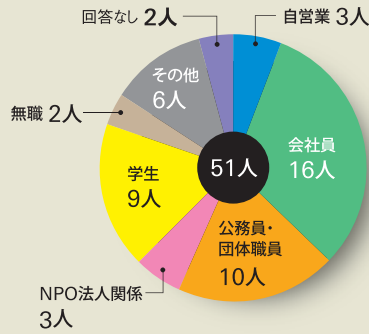
平成23年度 徳島大学地域交流シンポジウム「健康・医療・福祉のまちづくりを考える」アンケート集計結果

【アンケート実施日・場所】平成23年10月16日 とくぎんトモニプラザ 【回答者数】51名（参加者132名 回収率38.6%）

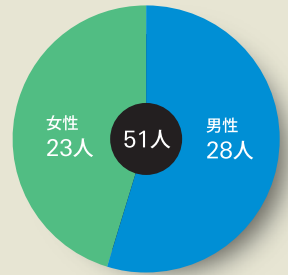
貴方の住所をお答え下さい。
（職場からお越しの場合は職場の住所）



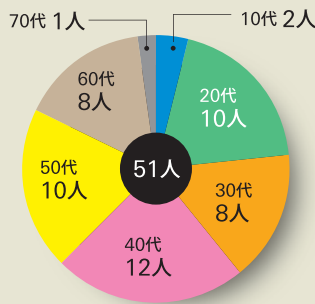
貴方の職業をお答え下さい。



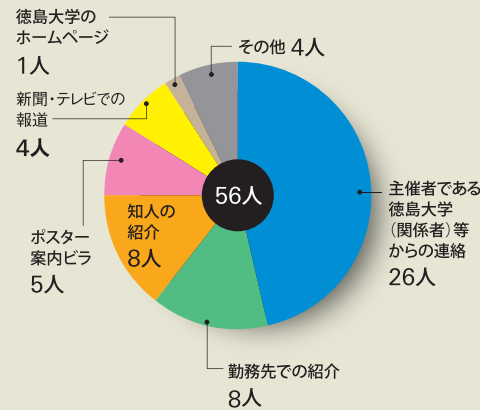
性別をお答え下さい。



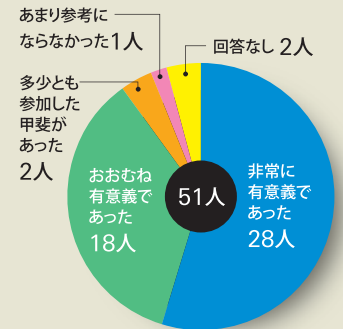
貴方の年齢をお答え下さい。



シンポジウムの開催をどのように
お知りになりましたか（複数回答可）



シンポジウムの内容は
有意義なものでしたか



シンポジウムの内容で関心を持たれた点をお書き下さい。

- 万代中央ふ頭プロジェクト
- 歩きたくなる街のイメージ
- 歩いて暮らすことを重視した町作り、道づくりを是非実行していただきたいと思います。
- 健康医療福祉都市構想について。非常に有意義かつ参考になりました。
- 楽しい、かっこいい、交通のあるまちづくりを具体的なアクションとして小さなことでも実践してみたいと思った。
- 歩いたりして運動することは、自分自身の健康のためだけでなく、財政的にも良いことだということ。
- 健康を基本にまちづくりをしていこうという考えは、新鮮でこれからの時代にあっていると思った。徳島の万代がその先進となればイイと思う。
- 具体的なヘルシーロードの取り組みを見ることができたので良かったです。
- 徳島市内にも郊外型のショッピングセンターだけでなくどんどん歩いてショッピングに行ったりできる町づくりをして整備してほしいです。
- パネルディスカッションも具体的な話が色々聞け面白かったです。
- まちづくりに健康・医療といった視点から取り組む考え方がおもしろいと思いました。・・・など

シンポジウムあるいは徳島大学に対して、
要望やご意見があればお書き下さい。

- 医療、スポーツ、都市計画まで非常に幅広い分野の講演でおもしろい内容でした。
- 徳島での取り組みを全国に発信して頂きたい。
- もう少し具体的な内容にふみこめるとよいと思いました。内容が多くて議題出しになった？まずは1回目を終えたので、2回目以降を楽しみにしています。
- 大学自体でテーマのある活動をしてほしい。テーマのためにはお金も協力も集約させておく必要があると思います。コミュニティーファンドはロータリー、ライオンズ、などにまかせてはどうか…。
- 課題解決先進県を目指して欲しい。
- 脳卒中等を持たれた方が今現在徳島の地域へ帰る際のサポートを先生方がどのように考えているのか教えて頂きたいです。
- 昨年のシンポジウムと比較してすばらしいものでした。今後も異分野を統合するシンポジウムを企画してください。・・・など

※アンケート回答者の文言をそのまま記載